



▲深水代表取締役（左）に感謝状を手渡す甲斐町長

町への寄附企業に感謝状 企業版ふるさと納税制度

9月5日（木）町本庁舎で、本町へ寄附いただいた山王株式会社（熊本市・深水弘一代表取締役）に感謝状が贈られました。今回、同社からの寄附は昨年度に続き2回目。寄附金は、安定した「しごと」を創出する基盤づくりや関係人口の創出と定住促進などを基本目標とする「甲佐町まち・ひと・しごと創生推進計画」に基づく事業のために活用します。



▲犬とのふれあい方を真剣に聞く児童たち

いのちの大切さを学ぶ 甲佐小学校で「命の教室」授業を実施

10月28日（月）甲佐小学校多目的室で1・2年生を対象に「命の教室」授業が行われました。同授業は犬とのふれあいを通じて豊かな感受性と命を慈しむ心を育てることを目的に実施。児童たちは犬の心音を聞き、自分たちと同じ命であることや、犬との正しいふれあい方を学びました。授業の最後には絵本の朗読があり、児童たちは人と動物の幸せについて考えました。



▲町本庁舎で意見交換を行う東京甲佐会の一行

組織拡充に向けて町と連携を 東京甲佐会の一行が来熊

10月24日（木）、東京甲佐会（岩本憲章会長）ほか8名が来熊されました。同会の一行は熊本市などを視察されたのち、本町を訪問。町本庁舎にて「東京甲佐会」の会員確保に向けた意見交換が行われました。岩本会長は「本会も結成から30年が経過し、会員の高齢化が顕著である。組織の若返りや本会の存続について町と連携して進めていきたい」と述べられました。



▲協定書を締結した御船町の藤木町長（左）と甲斐町長（右）

住民の安全、安心を守るために 御船町と緊急連絡管基本協定を締結

10月22日（火）本町と御船町が「御船町・甲佐町における緊急時の応援給水に伴う連絡管設置に関する基本協定書」を締結しました。本協定で両町は、町境にある両町の上水道をつなぎ、災害や事故に備え相互に応援給水する協定を結びました。連絡管は令和9年3月末に完成予定。甲斐町長は「今回の取り組みは住民の暮らしの向上につながる」とあいさつしました。



▲団体、個人ともに優勝を飾った和田選手

和田選手が九州大会で優勝

第42回九州少年柔道大会

7月6日(土)～7日(日)人吉スポーツパレスで開催された第42回九州少年柔道大会に甲佐町総合型地域スポーツクラブの甲心館に所属する和田希夢琉選手(龍野小5年・浅井区)が出場しました。和田選手は団体戦で県代表として参加し優勝。個人戦でも見事優勝を飾りました。和田選手は「日の丸を背負う選手になりたいです」と今後の抱負を話しました。



▲敬老会で案内を行う子ども民生委員

高齢者とのつながりを深める

子ども民生委員が地域活動に参加

10月27日(日)龍野小学校体育館で、龍野地区敬老会が開催され、子ども民生委員の2名がスタッフとして参加しました。高齢者とのふれあいを通して、地域社会の一員としての自覚と思いやりの心を育てる目的で昨年から始動した子ども民生委員制度。子ども民生委員は来場者への声かけや受付案内、席への誘導などを行い、地域の高齢者との交流を深めました。



▲胸骨圧迫を学ぶ町消防団員たち

町民の人命を守るために

令和6年度普通救命講習会

11月10日(日)町総合保健福祉センター鮎緑・ホールで町消防団員を対象とした普通救命講習会が実施されました。同会は消防団員として応急手当に関する正しい知識と技術の向上を図ることを目的に毎年実施。参加した消防団員は、上益城消防署の職員の指導のもと、AEDの使い方や胸骨圧迫などを実践して救命方法を学びました。



▲スタッフの案内に従い夜道を歩く参加者

約10^千のウォーキングに挑戦

甲佐町ナイトハイクが開催

10月25日(金)甲佐町ナイトハイクが開催されました。青少年の育成や異世代交流などを目的に、町青少年健全育成町民会議と町教育委員会が共催。午後7時に町生涯学習センターを出発し、益城橋を渡って美里町中央公民館、やな場でみかんなどを食べて休憩をとりつつ、約10^千のコースを130人が歩きました。到着後には、町の特産品などの参加賞が配られました。